

復興支援フォーラムニュース No.6

(URL <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫(tkonno67@gmail.com) 中井勝己(024-548-8313)>

第4回 「ふくしま復興支援フォーラム」を開催しました。

さる1月28日(土)午後、「福島市市民活動サポートセンター」・多目的ホール(チェンバおおまち)で、第4回フォーラムを開催しました。報告者は、丹波史紀氏(福島大学)で、「双葉郡8町村住民実態調査について」報告をいただきました。参加者35人ですが、活発な復興をめぐる議論が展開されました。以下は、当日、文書で提出されたご意見・ご感想です。紹介させていただきます。

~~~~~  
★復興・再生は、まず「仕事ありき」と思う。その仕事は、国や県が挙げている再生エネルギーや医工業等は長期を要するし、雇用者数も少ない。丹波先生もお話されたように、若い人達には世界で負けないモノづくり産業を、高齢者には農業をやれるように支援できればと思う。(R.N)

★当を得た調査事業であったと思います。行政へのアピールを継続的に行ってほしいと思います。(K.F)

★アンケート調査の中に、「放射線の影響が不安」という項目(質問、戻らない理由 or 現在の生活困難)があります。前者は83.1%、後者57.8%です。私たちは、現場で被災された方と話すとき、漠然とした不安を口にする方が多いのに気がつきます。漠然とした不安を、しっかりした自己防衛あるいは健康管理を行う。具体的な健康管理を行うとともに、ドクターによる指導を望む声も聞かれます。個別管理(体調、年齢、免疫力 etc)、被ばくによる発症が見られた場合の早期治療、完治計画、治癒率提示。高度先進医療的なものではなく、高いレベルの診療報酬が必要との声もあります。ノコミュニティ、まちづくり、産業の基本、動かすのは人なので、人の健康を基盤におきながら進めていくことが大切と考えられます。(S.S)

★P.6のスライドNo.23,24の50歳以上の帰還意思の高さと戻らない理由を相関させると、高齢者こそが先に戻り、生活することが、新しい地域社会づくりのさきがけと思います。(H.K)

★実態調査の結果から、改めて双葉の方々の苦勞を知ることができました。調査のご苦勞に敬意を表します。(Y.S)

★「住民の声は様々・・・」「住民の声を反映した復興計画を」というのは、まさしくその通りだろうと思った。私は、福島市内の小さな地域のことしか知らないが、放射線に対する思いや考え方はそれぞれであり、「除染」というみんなが望む市の計画にも不満、不安がたくさん出てくる。住民は意見を言う場もない。(H.S)

★高校で、今回の原発災害についての授業を展開しているところです(センター試験も終わったので・・・)。双葉郡の地域の実態をどれだけ反映させられるか、わかりませんが、少しずつ位置づけて、授業で話してみたいと思います。(K.F)

★8町村の方に調査を行い、これらの人々の意見を取りまとめた事は非常に良いことと思  
います。被害住民の声に基づく施策を取り上げるように、東電や国へ働きかけていくこと  
が必要だと考えます。(K.S)

★この調査で回答者が、意向として示したものが、「あくまでもこうしたい」という気持ち  
なのか、「現実的にはこうなるだろう」という見通しの範囲内での選択なのか。それによっ  
て、何を読み取るべきかが違ってくると思う。また、その回答の前提となる、各避難者の  
持つ情報の質・量・情報源によって回答の方向性に違いがあるのではないか。(県外に避難  
している方が約3割という数字を見てそう思います。／(調査とは直接関係ないが)いわ  
ゆる”行政の限界”を取り払わせる(既存の法概念を外す)方向に行くのか、限界ありき  
で別の方策をめざすのか、その方向性が問われると思いますが、それを打ち出す主体は、  
何処なのでしょう。(H.M)

★飯舘村では1,700世帯が2,700世帯となり、家族がバラバラとなり、帰村のあり方はこ  
の度の3区分の分断と、除染の成果によって決定的となってくると考えられる。政府の収  
束宣言～区域見直し～追いつかない損害賠償～さっぱり具体化しない除染など、村民にと  
って前向きに生きるための見通しや安心できる施策など不足している。今回の実態調査は、  
今後大いに生かせるものです。健康＝自立が基本となりますね。(H.S)

★地元の間人が、「自ら動く」、「考える」。やはりこれしかないと思います。双葉郡、飯舘  
村に限らず、福島県全体として言えること。国が”やる”のを待っていても何も進行しな  
いし、何も解決しない。(A.K)

★時間不足、もっとタツプリ議論する場を。(S.I)

★浪江町大字小野田字上の原地区の具体的に水田、畑の再耕作まで、何年かかかるかを聞  
きたい。(S.I)

★早急な復興住宅の建設。(R.T)

~~~~~  
【次回フォーラム】

☆ 第5回フォーラム

日 時 2012年2月20日(月) 18時30分～20時30分(予定)

報告者 渡邊 純 氏 (弁護士)

テーマ 「損害賠償問題の現状と課題」

会 場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」

大活動室 1

<MAXふくしま4F(福島市曾根田町1-18)>

~~~~~  
【次々回予定】☆ 第6回フォーラム

日 時 2012年2月25日(土) 14時00分～16時00分(予定)

報告者 小澤是寛氏(浪江町・桑折町駅前応急仮設住宅)ほか

テーマ 「原発事故に伴う浪江町の復旧・復興に思うこと」

会 場 福島市 市民活動サポートセンター・研修室

(チェンバおおまち 3F) (福島市大町4-15)